



奥村 みほ子

当館では、植物・動物・化石・鉱物などの自然物を資料として集め続けています。その中には当館の学芸員や関係者が採集してきたものの他、一般の方からご寄贈頂いたものも多くあります。それらの資料を守り、未来へ伝えていくことは博物館の大切な役割です。

集めた資料は定期的に“新収集品展”として、お披露目の展示を行っています。最新の収集品展は、令和7年6月28日(土)から10月13日(月)まで開催しています。本展示では、令和3年度から6年度までの4年間に集めた約3万点の資料の中から、よりすぐりのものを紹介しています。

今回の新収集品展の中で、動物・植物の展示物については「めずらしいもの」と「よく見られるもの」に分けて展示しています。

「めずらしいもの」は、収集の機会の少ない、希少な自然物で、後世に伝えるために積極的に収集する資料の代表です。

「よく見られるもの」は、埼玉県内で身近に見られる自然物が中心です。中には“こんなもので!?”と思われるようなありふれた自然物の標本も、環境の変化を記録する証拠として残しています。

また、埼玉県でも注目されている外来種や、自然を分かりやすく伝えるために作成した模型や標本なども紹介しています。



ライオン幼獣はく製



タイリクオオカミはく製

動物

ここでは、めずらしい動物として、ライオンの幼獣、タイリクオオカミ、カモの仲間のはく製を展示しました。ライオンやタイリクオオカミは、近い将来、絶滅が心配されている希少種です。カモの仲間のヨシガモも国内では生息数が減少し、国内絶滅危惧種に指定されています。そのため、いずれの動物もはく製の入手が困難です。これらは、県民の方が法令施行以前に趣味や調度品として所有していたものを寄贈して頂いたものです。

また、調査の証拠標本として、学芸員が採集したものや、外部研究者などが採集し、ご寄贈頂いたものがあります。その中でめずらしいものとして、水生昆虫の生息状況を調査する中で採集されたタガメなど水生昆虫類の絶滅危惧種の乾燥標本などを展示しています。よく見られる動物としては、魚類の生息調査の証拠標本として寄贈されたミナミメダカやニゴイなどの魚類の液浸標本を展示しました。



昆虫標本

植物

令和7年、埼玉県レッドデータブック植物編が13年ぶりに改訂されました。レッドデータブックとは、絶滅のおそれのある生物の今の状況を解説した本です。今回の改訂にあたり、県内各地で希少な植物の分布調査が行われました。当館では、本調査を行った団体から証拠標本を受け入れました。本企画展ではめずらしい植物として、これらの証拠標本を展示しました。

一方で、ある地域の植物相を正しく理解するためには、めずらしい植物に限らず、よく見られる

植物の情報も収集、保管しておくことが大切です。過去に採られた標本と最近採集された標本を比較すれば、その地域の自然環境の変化が分かるほか、「かつては普通に見られたが今ではほとんど見られなくなった」など、種ごとの分布の変化を知ることができます。また、標本に残すことで、分類学的研究の基礎資料とすることもできます。例えば、区別が難しい雑種や、分類があいまいな種は、今後の研究のために標本に残すことが大切です。最近は古い標本からDNAを採って解析する技術が発達しているので、こうした標本が役立つ機会も増えています。



さく葉標本・レプリカなど

外来種

外来種のコーナーでは、カミツキガメ液浸標本や、2023年以降に埼玉県に侵入が確認された植物であるアレチケツメイの標本を展示しました。

外来種とは、「人の活動」により、本来生息していなかった場所に、他の地域から持ち込まれた生き物です。埼玉をはじめ、日本にも毎年のように新しい外来種が入ってきており、その数は増え続けています。外来種は、今まで日本にすんでいた生き物に大きな影響を与えることもあり、分布の広がりには注意を払わなくてははいけません。これらの資料は、そのための情報や検討材料になります。

化石

当館では、県内産の化石を中心に収集をしています。学芸員が調査研究のために採集したり、化石コレクターの方や外部研究者、当館ボランティアなどからの寄贈を受けたりすることが、主な収集の手段です。本展示では、県内の化石コレクターの方から寄贈された県指定天然記念物のメガロド



サメの歯化石

岩石・鉱物

岩石・鉱物標本についても、学芸員が採集したもののほか、コレクターや研究者の方からご寄贈頂いたものが多くあります。埼玉県内の地質を表す一般的な標本も収集対象ではありますが、動物や植物の資料とは異なり、数年で県内の地質が変化することは考えにくく、またすでにひとつおりの標本が収蔵庫にそろっているため、最近では入手困難な希少標本を中心に集めています。本企画展では、秩父鉱山の自然金や、全国の紅簾石標本、秩父ヒスイや自然銅といった寄贈標本を展示しました。

自然物を紹介するための資料

みなさんに自然をより深く理解してもらうための標本や普及資料も展示しました。例えば、地形模型や植物のレプリカ、鳥の羽根標本や翼標本などです。これらの標本は、自然の状態では観察しづらい自然物の特徴を強調したり、見やすく加工したりすることで、より分かりやすい標本になっています。

(おくむら みほこ・主任学芸員)



鳥の翼標本